



墨然人が描く
すみがき

『墨描・中国人強制連行図絵』展

(発足現共和町玉川篇)

人として忘れてならない歴史がある

墨然人が描く

『墨描・中国人強制連行図絵』展 (発足現共和町玉川篇)

日時▶2008年8月15日(金)～17日(日) 午前10時～午後7時 **入場無料**

会場▶ラルズプラザ札幌店 8階催事場 札幌市中央区南2条西2丁目(狸小路2丁目)

●主催 「中国人強制連行联谊会連合」を支える会(準) / 龍谷大学深草学舎田中宏研究室

●後援 中華人民共和国駐札幌総領事館 / 札幌日中友好協会 / 北海道札幌華僑総会 / 連合北海道
NPO花岡平和記念館 / 北海道平和運動フォーラム / 北海道教職員組合後志支部

「墨描・中国人強制連行図絵」展

あれから 63 年、そして遺骨送還 55 周年、
人として忘れてならない歴史があります—!!

日中戦争から太平洋戦争に拡大した頃、日本国内の労働力不足を補うために約 4 万人の中国人が日本各地の 135 事業場に連行され、過酷な労働のなかで 6,830 人が生命を奪われました。当時、北海道後志管内発足村(現共和町)の鹿島組玉川事業所の中国人収容施設「泰山寮」で管理人を命じられた志村墨然人さん(85)は、目撃し体験した中国人の惨状を、慙愧の思いと自責の念にかられ、これの贖罪の思いを籠め「自分が記録しなければ」と、10 数年前から現地近くの古寺に仮寓して描き続けてきました。(中には 3.6×2m のものもあり) いずれも迫真力を備えていて、見る人を圧倒します。

これら作品は、今まで花岡事件の現地(秋田県大館市)、北京での花岡蜂起 60 周年記念式、天津の「在日殉難烈士・勞工記念館」、台湾での「中国人強制連行と戦時性暴力」シンポジウムなどで、その一部が展示されただけです。

このような経過の中で、先般 5 月 17 日の京都展を初めて全国公開に踏み切った事を機会に北海道でも開催の聲が挙がり、急遽札幌に於いても開催することとなりました。北海道内には 58 もの事業場で約 2 万人の中国人勞工が働かされておりました。これは全強制連行中国人の半数に当たります。

旧発足村(現 共和町)には一片の資料も記録されたものはありません。また同町及び周辺町村でも、この事実を知る人も皆無の状況となっておりますし、この玉川選鉱場の建設現場も現在北電の「泊原発」の用地内フェンスのなかに潜まれ、窮見することも出来ません。

忘れられ風化して行く中国人強制連行のあった郷土の人々を始め道内各地の事業場(57)も含め日中友好のためにも、この件を改めて知る機会にもなればと札幌展を開催する次第でありますので、何卒多くの方々に御来場ご高覧をお願い申し上げる次第であります。